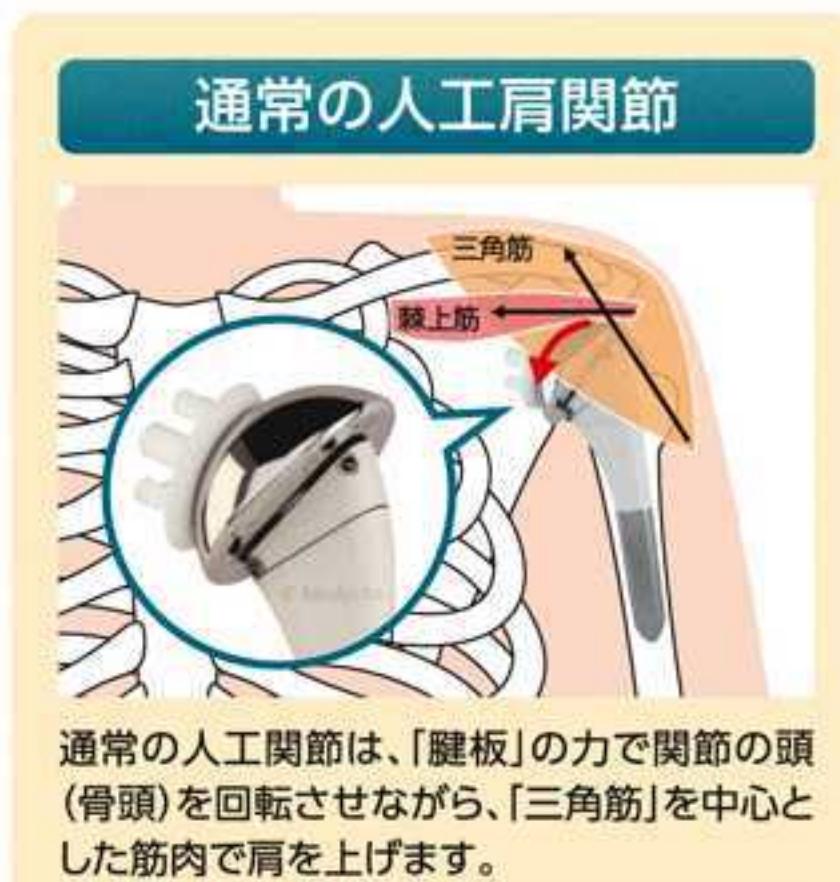


# その「肩の痛み」、放置していませんか？

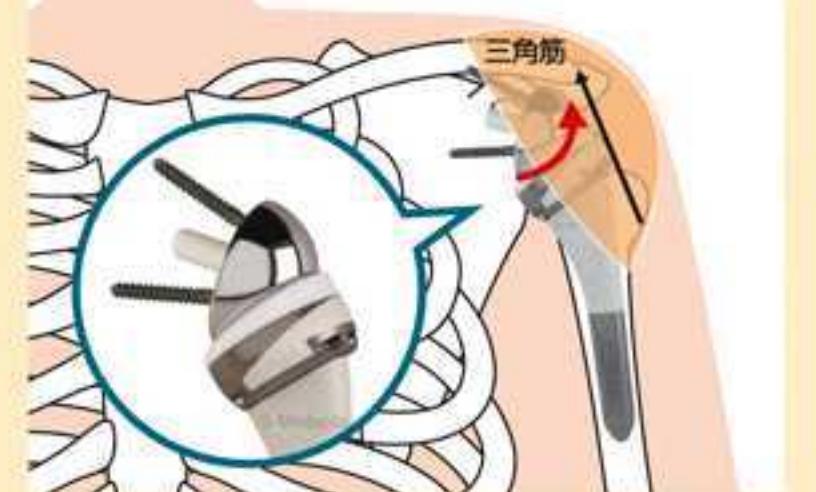
加齢に伴い多くの人が経験する肩の痛みに「四十肩・五十肩」がありますが、痛みが続いても“歳のせい”とがまんしてしまう人が多いのではないでしょうか。

しかし、四十肩・五十肩と思っていたら、実は肩が深刻な状態になっていることが少なくありません。多くの人が軽視しがちな「肩の痛み」を起こす原因について、専門医である河野先生にお話をうかがいました。



通常の人工関節は、「腱板」の力で関節の頭(骨頭)を回転させながら、「三角筋」を中心とした筋肉で肩を上げます。

## リバース型人工肩関節



「腱板」がない患者さんでも、リバース型は主に「三角筋」の力で人工関節の骨頭部分を回転させ、肩を上げることができます。

## 新たな治療の可能性

治療不可だつた方に

## 中高年に多い肩の痛み「四十肩・五十肩」の正体

執刀できるのは日本整形外科学会が認定した専門医に限ります。このように厳しい条件下ですが、治療が困難であった患者さんに最後の選択肢ができたことは大きな福音といえます。

## 「肩の痛み」を軽視せず 整形外科を受診しよう

他の病気同様、肩関節の病気も、早期発見なら治療の安全性は高く、身体的・経済的な負担も軽減できます。人生100年時代を迎えた現代では、いかに元気で自立した生活ができるかが大きな課題です。

「肩の痛み」は軽視しがちですが、そこに潜むリスクを見逃さないためにも、違和感を感じたら早めに整形外科を受診するのが大切です。レントゲンやMRIなど身体的な負担の少ない検査で診断できるので、ご本人はもうろん「肩が痛い」と訴えるご家族がいたら「歳せい」と放置せず、整形外科への受診を勧めてあげてください。

、高度な治療法である」とから、

です(左図参照)。通常、肩を上げるためには「腱板」と「三角筋」の双方の力が必要となります。が、腱板の機能を失った人は肩を上げることが難しくなってしまいます。これを可能にするための構造が「リバース」であり、腱板がなくとも肩が上げられる、腱板が修復できない患者さんのために設計された人工肩関節といえます。これにより痛みがなくなり、肩をまったく上げられなかつた状態から、個人差はあるものの、布団の上げ下げや洗濯物干しができるようになつたなど、多くの患者さんから喜びの声を聞けています。

ただし、体の構造を変化させる治療方法であるため、手術が受けられる患者さんは「原則65歳以上」「腱板断裂により肩を上げることが不可能」「関節に変形がある」というさまざま条件を満たした方に限定されています。



藤田医科大学病院  
整形外科 講師

## 河野 友祐先生